

会場アクセス

電気ビルみらいホール

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通 2-1-82 共創館 3F
TEL. 0120-222-084

西鉄電車

・西鉄天神大牟田線「薬院駅」より徒歩5分

タクシー

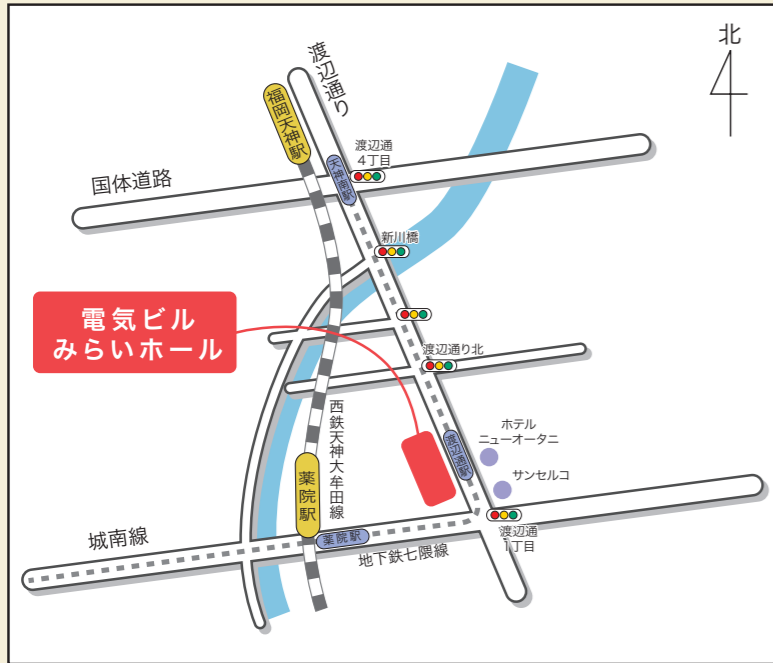
・天神より5分・JR博多駅より7分・福岡空港より25分

西鉄バス

・「博多駅前A番」停留所より乗車→「渡辺通1丁目」停留所降車すぐ
・「天神大丸前4C」停留所より乗車→「渡辺通1丁目」停留所降車すぐ

地下鉄

・七隈線「渡辺通駅」降車（電気ビル本館B2Fへ直結）



お問い合わせ・お申し込み先

下記の申込内容を、NPO 法人 まるまで、FAX、郵送、Eメールでお知らせください。

「ケアする人のケア」セミナー九州大会実行委員会

〒815-0041 福岡市南区野間 3丁目 19-26 NPO 法人まる内
TEL : 092-562-8684 / FAX : 092-562-8688
Eメールでのお申し込みはこちら ⇒ carecare-seminar@popo.or.jp

「ケアする人のケアセミナー」参加申し込みフォーム FAX 092-562-8688

ふりがな	ご所属 (よろしければ、活動先・活動内容などをお書きください。特になければ記入不要です)	
お名前		
ご住所 (□ご自宅/□勤務先等)		
〒		
TEL (□ご自宅/□勤務先等)	FAX (□ご自宅/□勤務先等)	
Eメール (□ご自宅/□勤務先等)		
交流会 (2,500円)	<input type="checkbox"/> 参加する (当日の受付時に参加費をお支払いください)	<input type="checkbox"/> 参加しない

※ご記入いただいた個人情報は、本セミナーの受付事務においてのみ利用させていただきます。

「ケアする人のケア」セミナー九州大会

支え合いのコミュニティづくり



日時

2014年 1月 19日(日)

10:00~17:00 ※交流会 19:30まで

会場

電気ビルみらいホール
福岡市中央区渡辺通 2-1-82 共創館 3F

主催

一般財団法人 住友生命福祉文化財団、財団法人たんぽぽの家

実施主体

「ケアする人のケア」セミナー九州大会実行委員会

協力

NPO 法人まる

後援 (予定)

福岡市、福岡県社会福祉協議会、福岡市社会福祉協議会、西日本新聞社

参加費無料
定員 300名
要申込

手話通訳
あります

急速に進む人口減少や高齢化、単身世帯の増加により、これまでの地縁・血縁・社縁に基づいたコミュニティが失われ、農村部・都市部に限らず地域の力は弱くなりました。人と人とのつながりが希薄になり、ケアする人やケアされる人が社会的に孤立しています。介護や看護、子育てなど「ケア」の現場でさまざまな問題が起こっています。これらは医療・福祉などの制度だけで解決することはできません。とりわけ、ケアの際に生じる痛みや悲しみは制度で補うことはできません。

このような中、人と人が協力しながらお互いに支え合うコミュニティづくりが各地で展開されています。このセミナーでは、ケアする人、ケアされる人も安心して暮らすことのできるさまざまな取り組みや、一人ひとりの生き方を大切にしたいケアのあり方についてともに学びます。

新たな「ケア」の創造に関心のあるみなさまのご参加を、心よりお待ちしております。

「ケアする人のケア」セミナー

プログラム

午前の部

9：20～10：00

10：00～10：05

問題提起

10：05～10：45

対話

10：45～11：45

午後の部

対話

10：45～11：45

〈医〉

12：45～13：45

「ケアする人のケア」セミナーを
ケアする人のための参加型インターネット放送局
「ケアラズジャパン」でライブ配信します！

<http://care-jp.tv/>

受付 開会あいさつ

「地域は今一支援合って生きる」

過疎化は農村部に限らず都市部でも進んでいます。人と人とのつながりが希薄になっているだけでなく、インフラが崩壊しているところもあり、お互いの生活を支え合うための新たな仕組みが求められています。ケアする人、ケアされる人も生活しやすい地域づくりについて学びます。

竹川俊夫（鳥取大学地域学部 地域政策学科准教授）

住民主体の地域福祉活動の推進方法や、過疎地の地域福祉のあり方に関する研究を行っている。

「個のものがたり それぞれの介護のかたち」

身近な人が認知症になったら…。家族ゆえに傷ついたり、受け止めきれないことがあるなど、さまざまな心の負担を抱え込んでしまうことがあります。しかしそのような体験が、観点を変えることによって癒しや成長の機会となります。想像力とユーモアに基づく視点から生き方、老い、介護について考えます。

岡野雄一（漫画家）

1950年、長崎県生まれ。漫画編集者、広告代理店、タウン誌編集長などを経て漫画家となった。老齡の母を描いた『ペコロスの母に会いに行く』が大ヒットし、映画化される。シンガーソングライターでもある。

聞き手：佐々木喜美代（アジア・エイジング・ビジネスセンター 上席研究員）

福岡のタウン情報誌「シティ情報ふくおか」の編集に携わる。編集長、発行人などを経て、2000年に退社。2001年、九州大学大学院比較社会学府に入学。2006年、博士号（比較社会文化）取得。2006～2011年、福岡市市長室広報課課長（5年任期）を経て現職。将来の都市型コミュニティとはどうあるべきかの調査研究を行っている。

休憩

※昼食はご持参いただくか、お近くの飲食店などをご利用ください。

支援合いのコミュニティに向けて 医・食・住の提案

痛みを分かち合う

心の問題は外から見えにくいため誤解されやすく、理解が得られにくいことがあります。とりわけ、ケアする人やケアされる人は社会的に孤立しやすく、問題がより深刻になりがちです。苦悩を抱える人へのアプローチやセルフケアについて学びます。

西村直之（あらかきクリニック院長、NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク代表／那覇市）

薬物依存症・アルコール依存症を専門とする精神科医であり、パチンコ依存の悩みを抱える人やその家族からの電話相談を受ける団体「リカバリーサポート・ネットワーク」の代表理事を務める。

佐々恭子（造形作家／福岡市）

設計事務所、マスコミを経て1992年より福岡で造形作家活動を開始。福岡県内のギャラリー、美術館などでインスタレーション作品を発表してきた。同年より福岡市内の大学病院、精神科クリニックで表現活動を行うとともに、各地で精神障害を抱える人と地域を結ぶワークショップ、舞台づくりを行っている。

〈食〉

13：45～14：45

14：45～15：00

〈住〉

15：00～16：00

16：05～17：00

17：00

17：30～19：30

食卓共同体

家族が個別に食事をすることや一人暮らしによる「個食」が増え、心と身体の健康に影響を及ぼしています。お茶の時間や食事を誰かと共にすることは、健康の源と言っても過言ではありません。地域のつながりを再構築するコミュニティカフェの取り組みや、食を通して心身の健康を支える実践について学びます。

棕野美智子（大分大学福祉科学研究センター教授／大分市）

厚生労働省、日本社会事業大学社会福祉学部教授を経て、現職。コミュニティカフェについて全国調査を行う。

田原京子（NPO法人 たすけあい組織鼓楼代表／別府市）

高齢者や障害者、未来を担う子供たちが明るく楽しく日々を過ごしていけるよう、地域の人々がお互いに助け合う地域社会を実現するため、草の根団体「たすけあい組織鼓楼（ころう）」を設立。居宅介護、訪問介護、通所介護などを行っている。

休憩

終の棲家

人間にとって「いかによく生き、満足して死ぬか」は重大なテーマです。ライフスタイルが多様化する中で、地域で安心して暮らすためにも、豊かな人生であるためにも、従来の地縁・血縁・社縁を越えた新しい共同体のあり方を考えます。

市原美穂（NPO法人ホームホスピス宮崎理事長／宮崎市）

海外のホスピスの視察を経て、1998年から「ホームホスピス宮崎」設立に参画。2000年に認証を受け、2002年から現職。2004年に空いている民家を借りて「ホームホスピスカあさんの家」を開設。現在、宮崎市内で4軒を運営。

堂園春衣（NAGAYA TOWER 事務局長／鹿児島市）

海運会社、オペラ制作会社勤務等を経て、20代最後の数年をNAGAYA TOWER（幅広い世代・家族構成、さまざまなライフスタイルの人が集まる住民参加型の賃貸住宅）立ち上げに従事。

北村美樹（NAGAYA TOWER 社会福祉士／鹿児島市）

大学を休学し渡印。マザーテレサの施設でボランティア活動中にNAGAYA TOWER 構想の噂を聞き、鹿児島へ。

メッセージ—支援合いのコミュニティづくりに向けて

竹川俊夫、岡野雄一、西村直之、佐々恭子、棕野美智子、田原京子、市原美穂、

堂園春衣、北村美樹

進行：佐々木喜美代

セミナー終了

※ 諸事情により、プログラムの一部を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

交流会（参加費：2,500円〈要申込み〉）

会場：スペインバル&カフェ「Esperanza」

福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル共創館1F

定員：40人（先着順）

軽食や飲み物を囲み、セミナーで登壇いただいた講師への質問や感想、参加者同士の情報交換など自由に語らう場を設けます。ぜひご参加ください。